

東武東上線の利便性向上等に関する要望書

東武東上線は県内屈指の大動脈路線の一つであり、東京都内への通勤・通学路線として、また日常の生活路線として、毎日多くの県民が利用しております。

しかし一方で、相互乗り入れによる輸送障害の拡大等の負の影響、減便を余儀なくされた駅の利用者の存在、依然として厳しいラッシュ時の混雑など、改善すべき課題は多岐にわたります。

また、将来にわたり、首都圏の円滑な輸送の確保及び駅施設の整備の充実は引き続き重要な課題となっております。

そこで、当議員連盟では、日頃から東武東上線を利用している方々からの様々な御意見を踏まえ、次の事項について要望いたしますので、特段の御配慮をお願い申し上げます。

記

- 1 埼玉県エスカレータの安全な利用の促進に関する条例に積極的に取り組むこと。あわせて、他都県においてもその趣旨が広まるよう先頭に立って取り組むこと。
- 2 乗降客数が多い駅でありながらエレベータ未設置の駅へ早期に設置すること。あわせて、利便性向上のため上り・下りのエスカレータ及びエレベータを設置すること。
- 3 長期計画として、道路交通量が多い地域における東上線の連続立体交差化事業の具体化を図ること。
- 4 踏切の効果的な安全対策向上に資する設備の研究、早期導入を図ること。（視覚障害者用点字ブロックの敷設、音声による侵入注意アナウンス設備、三次元レーザーレーダー式踏切障害物検知装置、踏切AIカメラソリューション など）

- 5 東上線との直通運転を行う路線を増やすこと。
- 6 遠方輸送の強化としてTJライナーを増便すること。
- 7 乗降客数や乗換客数が多い駅では、利用者の動線が交錯しないよう「通行帯の表示を増やす」など混雑緩和、接触事故回避に向けた施設整備について検討すること。
- 8 バス乗り場や周辺施設も含めた駅の案内を子どもや高齢者、外国人などすべての利用者が視覚的・直感的にわかりやすいユニバーサルデザイン化することを検討すること。
- 9 東上線の遅延対策を図る観点からも、乗降客数の多い駅からホームドアの設置や自殺防止対策を更に推進すること。

令和4年12月7日

東武鉄道株式会社
取締役社長 根津 嘉澄 様

埼玉県議会東武東上線利便性向上促進議員連盟
会長 長峰 宏芳